in Tourist spot 観光地で

気づいた！かな？

1

カップルの男性が女性を怒鳴りつけています。これは、女性の心を傷つける暴力です。結婚相手や恋人などとても親しい関係にある人から受ける暴力のことをドメスティック・バイオレンス(DV)といいます。男性から女性への暴力はもちろん、女性から男性への暴力もあります。もしあなたが暴力を受けて、「コワイっ」「イヤだ」と思っても一人で解決できないときは、近くの相談窓口へ相談しましょう。
相手を思いやる心を大切に、ステキな関係を結んでいきましょう。

◆どんなことがドメスティック・バイオレンスになるの？

ドメスティック・バイオレンス(DV)にあたる暴力には、叩いたり蹴ったりする身体的な暴力、罵ったり無視したりする精神的な暴力、性行為を強要したりする性的暴力、生活費を渡さないなどの経済的な暴力など、さまざまなものがある。

◆奈良県におけるDV相談機関一覧

http://www.pref.nara.jp/secure/25410/dv-ura.pdf
(奈良県HP)

memo

◆デートDV相談メール

date_dv.1010@naraken-dv-sodan.jp

恋人からの暴力に悩んでいるときだけでなく、デートDVってなんだろうと思うときにも遠慮なくメールを。

気づいた！かな？

2

この観光地にも、外国人の観光客が増えてきました。それに合わせて、外国語で書かれた案内板も増えています。でも、文字を見るだけでは分かりづらいこともあります。外国人に道をたずねられたら、あなたはどうしますか？
もしかするとあなたは、外国語は苦手、と思っているかもしれません。しかし、話すだけではなく、身ぶり手ぶり、文字や絵を書いて伝える、といったコミュニケーション方法もあります。
あなたの少しの歩み寄りが、この街と世界をつなぎます。

気づいた！かな？

3

白い杖をついている人がいます。
視覚に障害のある人には、周りの人の動き、建物や道路の様子をつかむというのは、難しいそうです。ほら、彼女も人の波に入ってしまって、困っています。あなたも、一人でいつもと違った環境の中にいたら、不安に感じませんか？
そんなとき、だれかが声をかけてくれたら、安心しませんか？
視覚に障害のある人は、となりの人の肩や腕に手をそえると、さらに安心して歩くことができます。相手の立場で「自分にできることは何か」考えてみましょう。

気づいた！かな？

4

車イスの人が、道路と歩道の段差を乗り越えられず、困っています。街の中、お店の中、いたるところにこのような段差があります。それらを全部なくしてしまうことはできませんが、あなたの手助けがあれば、車イスでも簡単に段差を越えることができます。
「お手伝いしましょうか？」あなたの一言が、暮らしやすい街をつくっていきます。

◆まほろば「あいサポート運動」

県民一人ひとりが障害のある方に対する理解を深め、日常生活でちょっとした配慮を実践していく「あいサポーター」の活動を通じて、誰もが暮らしやすい地域社会を実現するための運動。

◆障害を知り、共に生きる
（奈良県作成の冊子）
さまざまな障害の特性や配慮が必要なことについてわかりやすく説明した冊子。あいサポーター研修の受講者等に配布。

◆まず、知ることからはじめましょう障害のこと
（鳥取県作成のDVD・50分）
さまざまな障害の特性や配慮が必要なことを映像でわかりやすく説明したDVD。

◆「あいサポーター」とは
さまざまな障害についての理解を深めるための「あいサポーター研修」の受講等により、障害のある方のことを理解し、街の中で困っている障害のある方の手助けをするなど、日常的にできる範囲での支援を行っていただく方のこと。